

講義科目	: 社会福祉援助技術演習 I	単位数	: 4
担当	: 北村 香織	学習形態	: 自由選択科目 社会福祉士必修科目
		実務経験	: 有 * 第1学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

この演習では、ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を体得することを第1の目標とする。また、ソーシャルワーク支援に関する講義で学んだ知識、価値規範、技術を実践的に理解することを目指す。

第16回目以降からは、ソーシャルワークの知識と技術を統合して専門的援助技術として体系立てられる能力を修得することを目指す。また、社会福祉士としての倫理的な判断能力を養い、実践的な対応能力を体得することを目指す。全15回を通して、具体的な支援の場面を想定したロールプレイングを中心とする演習形式で行う。

授業計画

- 第1回 ・社会福祉援助とは ・支援者としての自分とは？（自己覚知）
- 第2回 ・他者への理解（自己覚知2） ・福祉専門職としての価値観
- 第3回 コミュニケーションの方法（非言語・言語コミュニケーション）
- 第4回 面接における基本的応答技法
- 第5回 ソーシャルワークの過程（インテーク面接・アセスメントの方法）
- 第6回 ソーシャルワークの過程（支援計画の作成・支援の方法とモニタリング）
- 第7回 ソーシャルワークの過程（支援の終結と事後評価）
- 第8回 プレゼンテーション技術（個人及びグループ）
グループダイナミクスの活用：グループワークの特徴グループワークの展開過程
- 第9回 記録の種類と方法の理解 ・個人情報保護と記録管理上の注意
- 第10回 包括的な支援方法1（事例検討：虐待の事例）
・ロールプレイングによる事例検討1
- 第11回 包括的な支援方法2（事例検討：ひきこもり、貧困等の事例）
・ロールプレイングによる事例検討2
- 第12回 包括的な支援方法3（事例検討：認知症の事例）
・ロールプレイングによる事例検討3
- 第13回 包括的な支援方法4（事例検討：終末期ケア、災害時等の事例）
・ロールプレイングによる事例検討4
- 第14回 包括的な支援方法5（事例検討：権利擁護活動に関する事例）
・ロールプレイングによる事例検討5
- 第15回 ケースカンファレンスの理解 ・スーパービジョンの理解

教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。毎回演習用のプリントを配布する。

参考文献は適宜提示する。

成績評価方法

出席は毎回取る。

出席：60％ 演習への参加状況：10％ 「ふりかえり」の内容：10％

学期末に提出するレポート：20％

実務経験

障害者支援施設で支援員として勤務していました。利用者や家族と面接する際の実際についても演習内容に適宜取り入れていきます。

その他

援助技術とは、主体的に取り組んでいかなければ身に付けることができないものです。また、普段から意識的に自分の言動に心を配っていくことが必要です。実際に援助技術について練習する機会というのは多くありませんので、皆さんの主体的・積極的な参加を望みます。